

### 第 3 回三重県新エネルギービジョン策定懇話会 議事要旨

日時：平成 23 年 1 月 19 日（水） 13：30～16：00

場所：三重県合同ビル 4 階 第 1 会議室

#### ○新エネルギーに関するアンケート調査結果について

（委員）事業者アンケートの回答が従業者数 100 人未満の事業者となっている。

三重県には大企業も存在するので、大規模事業者の意向が確認できるとよかったかもしれない。

（事務局）無作為で抽出した 500 の事業者に対して調査を実施した。結果として小規模な事業者が多くなった。当初は業種によるバランスをとるか、規模によるバランスをとるかについても検討したが、恣意を含まない無作為抽出で実施することとした。

（委員）小規模事業者が多いのが主な原因だと思うが、新エネルギー導入のための負担を受容する回答が少ない。アンケート実施時に環境税の議論などがあつたことも影響している可能性があるのではないか。

（委員）アンケート結果を公表した際に、三重県の実業者は環境意識が低いような誤解を招くおそれもあるため、注釈など公表の仕方に配慮が必要。結果を見た人は、回答した事業者の多くが小規模であることまでは考慮してくれない。

（事務局）結果の受け取り方に誤解を生じないように配慮したい。

（委員）中小企業では、全量買取制度の情報も不足しているという話を聞くことがある。行政からの情報提供が大事である。

（委員）情報源としてマスコミが多い結果となっている。行政の立場として、エネルギー教育や普及啓発は重要であり、これまで以上にきめ細かな情報提供が必要であると改めて感じている。

（事務局）県としてもさまざまな機会を通して広報することが必要であると考えている。

#### ○新エネルギービジョン中間案について

（委員）一点目はエネルギー供給について、新エネルギーは採れる量が限定されることからエネルギー供給の補完であることをより明確にすべき。また、発電時に CO<sub>2</sub> を出さない電源は原子力、水力、新エネルギーの順であることを示して頂きたい。

二点目にエネルギーの需要面に関する高効率給湯器について、具体的にヒートポンプであることを示したほうが県民は理解しやすいと考える。ヒートポンプ技術は、ハウス栽培等の農業分野を含め空調分野での利用も進んでいることも追記してはどうか。また、業界では全国で1,100万台の導入を目標としており、より高い目標を設定してはどうか。

三点目に太陽光発電は国を上回る目標を設定しているが、これを達成する施策はどのように考えているのか。

(事務局) 一点目については、前回のご指摘も踏まえ、第2章に追記したところである。今後、県議会からの意見や報告も踏まえながら誤解のないように記載していきたい。今回策定するのは新エネルギービジョンであるため、新エネルギーに関する期待の高さを踏まえ、長いスパンの中での10年目の一つの姿として、現実を考慮しつつ明るい未来も示したい。

二点目のヒートポンプ等については用語解説に追加していきたい。

三点目は、アンケートからも補助のニーズが高いことは認識している。平成21年から国で大きな補助が始められた中で、県としては限られた予算をいかに有効に使うか、選択と集中を考えていきたい。また、多様な主体との協働や連携した取組を検討していきたい。

なお、目標は県の温暖化対策実行計画との整合も含めて検討している。

(委員) アンケートによる導入意向をもとに目標を推計しているが、課題によっては施策により解決できない可能性もある。課題を含めた導入意向をもとに目標とするからには論理的な説明が必要ではないか。

(委員) 目標設定に関する説明ロジックについて、県として全ての課題解決を図った上で導入を推進していくと取られかねない。普及推進に向けて、県へ期待するところは大きいですが、一方で、予算等の制約があることも十分に承知しており、少し説明を変えた方が良いのではないか。

(委員) 目標を精緻に積み上げるには困難が伴う。ロジックをきっちり説明し、政策誘導していくことが大事である。

(委員) アンケートの誤差はどうか。

(事務局) アンケートによる課題の中でも立地の問題など解決できない課題、維持管理費用に関する不安といった現状で支援を行っていないものは導入意向から除いているが、目標設定への示し方について検討したい。

なお、アンケートの誤差は5%を目標としている。

(委員) 廃棄物発電をバイオマス発電に加えることについて、廃棄物は法的に扱える対象も限られること、また、バイオマスの目標をより明確にする上で

- も分けたほうがよいのではないか。森林系の木質バイオマスを導入しているが、まだまだ近隣の山には間伐材が残っている。木質バイオマスの賦存量がどのくらいか、豊富さを示してもらえると事業者も導入を検討しやすくなる。
- (事務局) バイオマス由来の廃棄物発電は新エネルギーに含まれること、県にはRDF発電施設もあることから、バイオマス発電として整理した。バイオマスの賦存量については資料編に記載している。
- (委員) 風力発電の目標が高すぎるのではないか。風力発電の生活環境や自然環境への影響の懸念等の問題を記載しながらも、目標を高く設定するのは整合がとれないように思う。県が風力発電を推進するというメッセージになってしまう。環境等への問題を踏まえての姿勢としては目標が低い方がよいのではないか。
- (事務局) 前回までのご意見を踏まえ、風力発電のメリット・デメリットに配慮しながら記載している。県内の風力発電導入実績は、平成22年度現在で7万kWを超え、エネルギー需給見通しから想定される目標6.7万kWを超えている実態などを考慮した目標としている。
- (委員) コージェネレーションや燃料電池は、都市ガスだけでなくLPGなど石油系もあることを配慮されたい。また、燃料電池の課題として経済性があげられているが、初期コストは高額であるものの、ランニングコストは安価となっている。
- (事務局) 記載内容の修正を検討する。
- (委員) 推進体制に第三者の評価機関は考えているのか。
- (事務局) 県では、政策評価を実施しており、そのなかで県民に公表しながら進行管理を行っていく。
- (委員) 推進体制について、新エネルギーごとに市町や県の役割が異なるのではないか。地域の実情や地域特性に応じた取組もあるため、実施する際にはその点の配慮が必要と考える。
- (事務局) 市町の地域特性に応じて、連携した取組を行いたい。
- (委員) ビジョンを補完するものとして、年度ごとの施策の行程表(ロードマップ)を将来的に作ればよいと考える。県の施策だけでなく、経済産業省や環境省の施策を当てはめてもよいのではないか。
- (事務局) 県の総合計画をもとに、短期の戦略計画がある。ビジョンのアクションプランとしては、その戦略計画でお示ししていきたい。
- (委員) 国の目標を上回るプラス分について、どのような県独自の取組を行うのか示すとともに、あわせて再生可能エネルギーの全量買取に伴う費用負担

や電力系統安定化の費用負担が今後発生することを啓発していただきたい。  
(事務局) 予算の関係もあり、補助制度については明記できていないが、県は  
国の補助制度がない隙間を埋めるなど、国・県・市町の行政が一体となった  
支援策を検討していきたい。

#### ○スケジュールについて

(事務局) 3月に中間案として議会報告後、パブリックコメントを実施し、6  
月に議案として上程することを目指していきたい。年度をまたぐこととなる  
が、引き続きご協力をお願いしたい。